

大崎 PRIDE & BRAND

令和3年度

関東大会都予選

東京都ベスト8決定戦
(6回戦) VS 専修大附属

令和3年5月2日



OSAKI
BASKETBALL TEAM

激闘！東京都第1シード校 専修大附属に健闘するも、 惜しくもベスト8を逃す。しか し、堂々のベスト16入り！



1Q 13 - 24

2Q 19 - 14

3Q 14 - 19

4Q 18 - 5

Total 64 - 62 Lose

挑戦者のメンタリティ（1Q）

試合前の、アップから選手たちは緊張の面持ちで、固さがみられる。しかし、キャプテン#5の檄とともに、チームは笑顔を取り戻す。前日にキャプテンは、「チャレンジャー精神で俺たちはやることをやるだけです！」と語っていた。その通り、「迷いのないチーム大崎」の姿が1Qから見られた。1Q、彼らは挑戦者として、迷うことなく「練習通り」プレーを行い、作戦を遂行していく。キャプテンがファウルトラブルになるも、代わってベンチから出た#6のディフェンス・リバウンドで貢献。さらには、#9の獅子奮迅の活躍で、11点のリードで1Qを終えた。

本領発揮（2Q）

2Qは徐々に相手もディフェンスの圧力を強め始めるとともに、オフェンスリバウンドをしばしば、取られる場面も出てきた。1Qで我慢できていたディフェンスとリバウンドの保持が難しくなった。加えて、クォーターの終わり方も良くなく、相手の思い切りのよいシュートを決められてしまい、5点差まで縮められ終了。

得点差は考えるな、相手は強豪だ！（3Q）

ここまでは、予想以上の奮闘を見せていた。しかし、守りに入ることによって相手に飲まれてしまうことも予想していた。だからこそ、前半から言っているチャレンジャー精神を忘れず、「攻めろ！」ということチーム全体にキャプテンもコーチも伝える。その言葉通り、3Qも強気なプレーの連続とともにディフェンスリバウンドも再び死守し始める。2Qで詰められた点差を再び取り返し、11点差で勝負の最終クォーターへと進む。

ただただ悔しい…（4Q）

11点差リードでスタート。しかし、昨年度東京チャンピオンの足音は徐々に近づいてくる。選手たちも「何とかしなくては」との思いは見られるも、序盤とは打って変わって、固さがみられるようになる。バスケットボールは流れのスポーツ、とはよく言ったものだが、残り4分を切りついに2点差に詰められる。そして、、逆転。選手たちは本当によくやり切りました。それ以上の言葉はありません。



今大会は、1月～3月末まで長い期間の「部活動の自粛」がありました。再開は、3月22日からでした。コロナ禍の中、今大会が開催できたこと、関係各所の尽力があったからこそだと思います。また、保護者の方々や地域の方々、その他多くの方々の支えがあったからこそ、ここまで戦い続けることができたと思います。**感謝しかありません。**さらに、大会途中から、ベンチに入ることのできない部員は、感染予防のため「大会会場にも行くことができない」という寂しさもありました。しかし、陰日向に彼らがベンチ入り18人を支えてくれたこと、**感謝です。**悔しい結果ですが、ベスト16入りは立派です。49人の部員全員で勝ち取った栄誉だと思います。最後に、長い自粛期間の3か月で色々な思いを抱えながら自主トレ（筋トレ、400km走破）に励んだ全ての部員を、私たち顧問は、心から誇りに思います。**大崎PRIDE&BRAND**、ここにあり！！